

子どもの問題は大人の問題

民生委員と校長先生が情報交換

非行に至る前に、あらゆる策を講じて、心身ともに明るく健康な生活を送らせるように——との願いから、民生・児童委員と市内小、中学校の校長先生が、十月九日午後、香長中学校で話し合いをもちました。

あいさつ運動

学校側から「校外生活のは握はむつかしい。民生委員のみなさんの深い知識や知恵をお借りして、できれば解決策を出して、子どもを非行の前の段階でふみとどまらせるよう努力したい。また、民生・児童委員側から「私たちは、日頃は生活保護に手をとられがちで、

児童がおろそかになっていきます。児童の福祉向上のためにがんばりましょう。」と、それぞれからあいさつがあったあと、各地区での例や問題が出され、検討されました。

と絶えずPRに努めています。
②日章―早速三和に習いました。現在市のお世話で、ピラを二万枚刷ってもらっているが、配付方法を検討しているところです。やはり、民生・児童委員会やPTAが配付するのがよいでしょう。
③十市―あいさつがすべての美德の源だとの考えで、交通ルールを守ることも小学生のころから「習慣づける」よう努力しています。大人が子どもをほめる方向で運動を盛りあげなければなりません。

①三和―地区民生児童委員会、小学校、公民館では「明るいあいさつ運動」を進めています。だいがよくなったといえる程度です。これは地味な運動で、一週間ぐらいですぐしくなくなるので、いつも、根気よくやらないといけない。言いかえると、「家庭の改造」が必要。例えば、子どもが「おはよう」学校へ「行ってきます」と言おうとしても、親が先手をうって「はよう起きなさい」とか「はよう行かんかね」と命令するので、気持ちよくあいさつできないというふんいがある。何といっても、大人が率先してやらなければならぬ。

ポルノ雑誌自動販売機の撤去は、法的な強制ができないために問題が多く、市内にはかなり増えている状態です。県民が一つになり運動を盛りあげることが最大の効果を生むのではないかと。
その他、交通安全、自転車の二人乗り、かささが目立つ、などが出されました。
民生・児童委員からは「もっと学校から相談や情報をいただきたい。」との意見が出され、まだまだ両方のあいだが理想的とはいえない状態をうかがわれました。
今後は、学校教育と家庭教育の

悪書追放

範囲と接点のみつけて、そのなかで先生と家族、民生・児童委員の密接な連携をもつて、次代を担う子どもを健やかに守り育てていく方策をさぐっていくべきだと痛感しました。

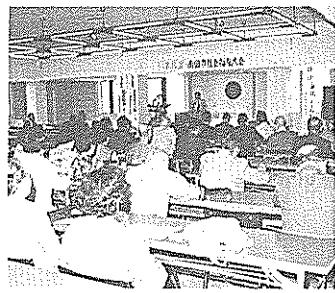
民生・児童委員

民生委員さんは、社会奉仕の精神で住民の生活の保護、指導や社会福祉の増進に務めるため、現在南国市に百五十名の方が厚生大臣から委嘱されています。

民生委員さんは、児童や妊産婦の保護や福祉を援助、指導する児童委員さんも兼ねていますので、正式には「民生・児童委員」と呼ぶべきです。

市民総ぐるみの福祉活動を

社会福祉大会開かれる



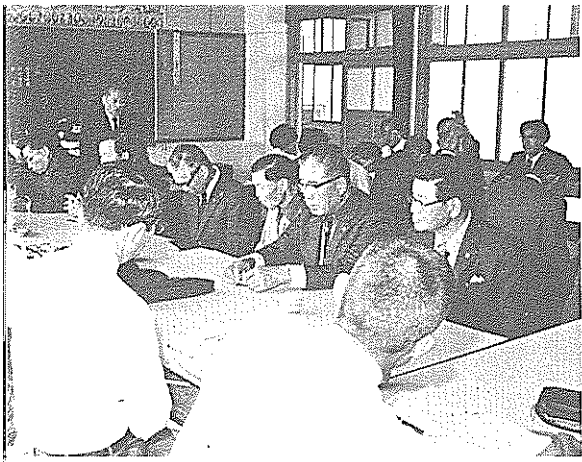
地域の社会福祉のあり方について―第十五回南国市社会福祉大会

福祉大会が十月十五日、午前十時から社会福祉センターに約百三十名が参加して開かれました。

まず、利岡富次大会長が「社会福祉は、国をはじめ県や市などの自治体が行うべきことはもちろんですが、その足りないところを補うことが地域に課せられた使命であり、この大会の目的でもあります」と武辞。来賓の小笠原市長から「これからは家庭で、隣りや近所で、たて割りの想いや、人

間関係を重視する必要がある、日本にふさわしい福祉行政というものを見直すべきだ」との福祉に対する取り組み方を強調したあいさつがありました。

つづいて、社会福祉事業に功績のあった個人二十六名、団体二にそれぞれ表彰状や感謝状が贈られ、日頃の福祉活動の労をねぎらったあと、「地域住民総参加による福祉の町づくりを目標としている」「地区の婦人の民生委員の活躍がすばらしい」などの意見発表があり、社会福祉に対する今後の取り組み方を再確認して大会を終えました。



地区の民生児童委員会では、子ども(児童、生徒)がいない家庭を一軒ずつまわって、運動の主旨を説明し、協力を頼みました。学校では、生徒への文書で「あいさつ運動」は続いていますか、